

本品はウマ (*Equus caballus* L.) の脂肪から得られる脂肪を精製したものである。

性 状 白色～淡黄色。 固体。 わずかに特異臭。

確認試験 (1) 本品約 0.2g と 85% リン酸 1～1.5ml とをガラス導管に付けた試験管に入れる。導管のもう一方を水 1ml の入った別の試験管に差し込み、試料の入った試験管を暗褐色になるまで加熱する。蒸分蒸生成物を 3～4 分間水中に導く。これに通酸化水素試液 1ml を加え 1 分間放置し、更に 12N 塩酸 5ml と 1% フロログルシン・エテルエーテル溶液 5ml とを加える。一度逆さにしてみると、液は淡紅色を呈する。

(2) 本品 5g をとり、けん化価測定法に準じてけん化した後、エタノールを完全に留去する。これを水 50ml を加えて溶かした後、塩酸酸性 (メテルオレンジ) としエーテル 30ml で 2 回抽出する。エーテル層を合わせ、水 20ml ずつで洗液が中性になるまで洗った後、水浴上でエーテルを留去し残留物の酸価を測定するとき (第 2 法, 0.5g), 193～205 である。ただし、けん化には 0.5N 水酸化カリウム・エタノール液 50ml を用いる。

融 点 25～35℃ (第 2 法)
酸 価 2.0 以下 (第 1 法, 10g)
けん化価 193～205
ヨウ素価 60～80

純度試験 (1) 過酸化価 本品約 10g を共栓付き三角フラスコに精密に量り取り、クロロホルム、氷酢酸混液 (2:3) 35ml を加え、静かに振り混ぜて透明に溶かす。次に清浄な窒素ガスを通して器内の空気を十分に置換し、窒素ガスを通しながらヨウ化カリウム溶液 1ml を正しく加え、窒素ガスを止め、ただちに共栓をして、1 分間振り混ぜた後、そのまま常温暗所に 5 分間放置する。その後水 75ml を加え、再び共栓をして激しく振り混ぜた後、デンプン溶液を指示薬として、0.01N チオ硫酸ナトリウム液で滴定しデンプンによる着色が消失するときを終点とする。下記の式により計算するとき、4.0 以下である。なお、本試験に先立って空試験を行いデンプン溶液で発色しないことを確認する。

$$\text{過酸化価} = \frac{A \times F}{B} \times 10$$

A: 本試験の 0.01 N チオ硫酸ナトリウム液使用量 (ml)

F: 0.01 N チオ硫酸ナトリウム標準液の当量

B: 試料採取量 (g)

(2) 重金属 10 ppm 以下 (1.0 g, 第 2 法)

(3) ヒ素 2 ppm 以下 (1.0 g, 第 3 法, 装置 B)

燻熱炭分 0.1% 以下 (第 3 法, 3 g)